

学校教育ビジョン	【学校教育目標】	心豊かにたくましく	自らの生き方を創造する	児童生徒の育成
【目指す子ども像】		【経営目標】		
・自ら進んで学び、将来の夢に向かって努力する子（自主性） ・思いやりの心を持ち、他者も自分も大切にする子（道徳心） ・社会のルールやマナーを守り、責任を持って行動できる子（社会性） ・心身ともに健康で、何事にも根気強く挑戦し、やり遂げる子（健全な心身）		（１）授業改善のために主体的に研究・研鑽し、確かな学力の向上に努める。 （２）温かで優しい心を育成し、互いの良さを認め合える人間関係づくりに努める。 （３）基本的生活習慣を身につけ、健やかな体の育成に努める。 （４）小中併設校の特色を生かした連携の取組を深め、学校・家庭・地域との連携に努める。 （５）組織的・機能的な学校運営に努める。		

評価の項目	今年度の重点目標	具体的取組	主担当	現状及び取組状況	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	備考	判定結果 (中間)	成果と課題	今後の改善策
①教育課程・学習指導	基礎的・基本的な知識や技能の確実な定着を図り、学力向上をめざす。	授業のドリル練習・スキルタイム・家庭学習を通して漢字や計算の力の定着に向けて、反復練習させるとともに、個別の指導を充実させる。	学習指導部 (教務主任・研究主任)	スキルタイムや小テストの実施等により、漢字力や計算力は年々向上しているが、個人や学年によって基礎学力の定着に差がある。	【成果指標】 学年相当の漢字、計算の力が身についている。	学年相当の漢字、計算のテスト結果が80%以上である児童の割合が A: 80%以上 B: 70%以上 C: 60%以上 D: 60%未満	漢字・計算の確認テスト (学期末)			
	学習習慣の確立に努め、主体的な学習態度を育てる。	自主学習ノートは、年間3冊を目標に継続して毎日取り組む。ノートの質の向上にむけ、ノート、プリント、成果物等をシェアすることでレベルアップにつなげる。	学習指導部 (教務主任・研究主任)	目標冊数の設定や家庭学習頑張リ週間の取り組みにより、自主学習ノートの取り組みは定着してきた。しかし、ノートの内容は、個人によってかたよりが見られる。	【満足度指標】 自主学習ノートの内容が工夫できている。	ノートの内容が工夫できていると思う教員が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	教師が毎日のノートでチェック			
②生徒指導 ※いじめの未然防止	学校全体でいじめの未然防止に努め、いじめのない学校づくりを推進する。	いじめアンケート・QU調査そして児童の日頃の様子などをもとに、児童や保護者ときめ細かな関わりを大切にしている。	生徒指導部 (生徒指導主事・道徳推進教師)	児童や保護者とのきめ細やかな関わりを推進してきた。些細なトラブルでも早期に対応し、互いを思いやれる優しい心をさらに育てていきたい。	【満足度指標】 児童が友人関係などで悩んだときに、相談できる人がある。	友人関係などで悩んだときに、相談できる人がある児童の割合が A: 100% B: 90%以上 C: 80%以上 D: 80%未満	児童対象アンケート (学期末)			
	明るく、自分からあいさつができる子どもたちを育てる。	児童会・学級会で目標をたて、さらに職員も取り組みをし、声がかけるように取り組む。	生徒指導部 (生徒指導主事・道徳推進教師)	自分からあいさつできる児童が少ない。自分からあいさつをしてもらっても、声がかからないことが多い。	【満足度指標】 明るいあいさつが、自分からできる。	明るいあいさつが自分からできる児童が多いと判断する教員が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	教職員アンケート (学期末)			
③キャリア教育・進路指導	自己理解、自己管理能力を意識したキャリア教育を推進する。	キャリア教育でつきたい力や重点目標を意識し、年間指導計画に沿った指導を行う。また、キャリアパスポートを活用し、活動後の振り返りを充実させる。	生徒指導部 (キャリア教育担当)	キャリアパスポートの活用という新たな取り組みと義務教育9年のスパンでキャリア教育を意識して進めている。	【満足度指数】 活動後に振り返りを行うことで、児童の自己理解、自己責任能力が高まっている。	振り返りを行うことで、児童の自己理解・自己管理能力が高まっていると判断する教員が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	教職員アンケート (学期末)			
④保健管理	自ら進んで、健康なからだをつくらうとする態度を育てる。	学期始めに「げんきアップ週間」を実施し、自分の生活を振り返る機会を持たせる。	保健指導部 (保健主事・養護教諭)	早寝・早起き・朝ご飯についてはある程度定着が見られたが、メディア使用については達成率が低かった。今年度は清潔な生活に心がけるように意識の向上を図り、実践させたい。	【成果指標】 元気アップ週間の期間中、学級や家庭で清潔な生活について振り返り、普段の生活において実践が身についている。	期間中清潔な生活を実践している児童の割合が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	元気アップカード (実施後)			
⑤安全指導	安全教育を推進し、職員の危機管理意識と危機対応能力を高める。	避難訓練は、本校の地理的条件を想定して行う。その他感染症予防に対する職員の研修を行い安全教育の充実を図る。	教頭・安全教育担当	昨年度十分に行えなかった防犯教室は、小中で連携し、本校の立地条件から想定した訓練を行いたい。また、安全教育に対する職員の意識を高め児童への指導に活かしたい。	【満足度指標】 避難訓練や研修会を通して、危機管理意識や危機対応能力を高めることができる。	避難訓練や研修会の実施により、危機管理意識や危機管理能力が高まったと判断する職員が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	教職員アンケート 保護者アンケート (学期末)			
⑥特別支援教育	児童についての理解を深め、それぞれの児童の困り感が減るように支援していく。	児童の困り感に対する支援を、専門相談や校内支援委員会等を通して検討し、実践していく。	生徒指導部(特別支援コーディネーター)	これまでも、児童の困り感が軽減するように支援方法を考えてきた。引き続き支援方法を検討し、実践していきたい。	【努力指標】 支援に必要な児童について現状を把握し、支援の在り方を見直す。	児童の現状を把握し、支援の在り方を見直したり、実践できたりした教員が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	教職員アンケート (学期末)			
⑦組織運営・業務改善	業務の平準化をめざす。	部会で業務の分担や行事の内容の精選について検討する。	学校運営委員会 (教頭・各主任)	業務改善の意識は高まっており、協力体制もできているが、業務が主担当に偏りがちである。	【努力指標】 各部会で業務が平準化されるように内容を見直し適切に仕事を分担し、実施することができる。	業務が平準化されるように計画し、実施することができたと判断する教職員の割合が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	教職員アンケート (学期末)			
⑧研修	「読む力」を高める授業づくりを研究する。	個の「聴く」「読む」力を高める授業を工夫する。	研究推進委員会	3年間の研究の成果で、授業改善や全校共通の実践が行われている。さらに「主体的に聴く」力をつけ、自ら考える児童を育てるための授業改善を行う。	【努力指標】 個の「聴く力」「読む」力を高めることを意識した授業改善に取り組む。	個の「聴く」「読む」力を高めることを意識した授業改善に取り組んだと判断する教員の割合が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	教職員アンケート (学期末)			
	計画的なOJTと若手層にとって有効な研修を実施し、人材育成を目指す。	OJT等のサポートを計画的に開催する。	若手早期育成プロジェクト コーディネーター	本校の若手の占める割合が半数以上を占めている。これまで行ってきたOJTを、より若手層に還元できるように計画的に研修を行う。	【満足度指標】 若手層に力のつくOJTを計画的に実施することができる。	OJT等が計画的に実施され、若手層にとって有効であったと判断する教職員が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	教職員アンケート (前・後期)			
⑨保護者、地域との連携	地域の人材を活用した教育活動を推進する。	地域の方や保護者の協力を得て、地域学習や伝統文化の継承等における学習効果を高める。	教頭 各担当	児童の教育活動の充実のために、より積極的にまた、継続的に地域人材や保護者、学習の素材となる場所を活用する。	【満足度指標】 地域人材等を教育活動の中で積極的に活用し、教育的効果を高めることができる。	地域人材等を積極的に活用し、教育的効果を高めることができたと判断する教職員と保護者が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	教職員アンケート 保護者アンケート (学期末)			
⑩教育環境整備	ICT機器を活用し、児童が意欲的に活動できる教育環境の整備と教職員の業務改善を推進する。	Wi-fi環境を活かし、デジタル教科書等のICTを有効活用した授業を積極的にに行い、児童も有効活用できるように更なる整備を行う。	事務・教頭・視聴覚担当	Wi-fi環境の整備により徐々に活用が浸透してきているが、より積極的に使用できる環境の整備や手立てが必要。	【努力指標】 ICT機器等を活用し、児童が意欲的に活動できる教育環境や自身の業務改善を目指す。	月1回以上デジタル機器を活用して授業や業務改善に取り組んだ教職員が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	教職員アンケート (学期末)			

学校関係者評価	
---------	--